

漁業者に無償で倉庫建設

山形・最上
会社社長 湊に展示場を開設

首都圏の企業に
資金提供呼び掛け

東日本大震災の被災地で、漁業用倉庫や集会所などに使えるユニットを無償で建設している建設会社社長、山口ステーブさん(55)＝山形県最上町＝が、倉庫の展示場を石巻市湊の私有地に開設した。震災から4年が経過したが、作業場などを必要としている人がまだいることから、取り組みと商品の良さを知らってもらうために設けた。



展示場の倉庫の床を拭く山口さん

倉庫は木造平屋で1棟約10平方メートルの大きさ。ユニット式で連結も可能だ。屋根部分にはアスファルト系(厚さ2センチ)の材質を敷き、トタンを付けて防水性を高めている。湊の展示場には5棟を展示し

ている。山口さんは宮城県遊技業協組や食品メーカー「ハイロンツ」(東京)、高校生ボランティア組織「Youth United」(同)などの資金協力を得て、2011年秋から昨年11月ま

でに東松島市宮戸、石巻市雄勝町、女川町出島などに集会所、作業場を建てた。支援先は被災地の10地域、計40棟を超える。しかし年月の経過とともに、資金を提供する企業や団体が激減。付き合いのあ

る首都圏の企業を回り、支援金を求めている。山口さんは「喜びはないし、断熱性とぬくもりもある。興味のある人はぜひ見てほしい。支援する企業や団体

も引き続き求めている」とアピールしている。連絡先は090(5840)4551。